

**臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同
出生・発達分科会（第26期・第14回）
議事要旨**

1. 日 時 令和6年12月17日（火）18:00～19:20

2. 会 場 オンライン会議（zoom）

3. 出席者（五十音順）

高橋尚人、藤井知行（以上、会員）

石崎優子、神尾陽子、古庄知己、島 蘭 進、柘植あづみ、船曳康子、水口 雅、水野紀子（以上、連携会員）

4. 議事録作成者 高橋 尚人

5. 議事概要

（1）連携会員（特任）の追加について

この分科会は審議事項をまとめ意思の表出の検討を行う段階にあるが、小児の生命倫理的課題の歴史的変遷を熟知し、自身が第一線で生命倫理的課題について研究を行っている者の参画が絶対的に必要と考えられた。現在早稲田大学で生命倫理学を専門とし研究をしている笹月桃子氏を当該連携会員（特任）に推薦することについて審議を行った。候補者は日本生命倫理学会の理事を務め、日本小児科学会の倫理委員会の委員長も務め小児医療の現場の生命倫理的課題についても精通している。審議の結果、笹月氏を申請することを出席者全員一致で承認した。

（2）意思の表出と今後のスケジュールについて

委員長の高橋が資料2、3、4を用いて、日本学術会議では現在どのような意思の表出の仕方があるか、それぞれのスケジュールやタイムラインはどのようになっているか説明を行った。各委員の過去の経験なども追加報告され、現状の確認を行った。

（3）今後の分科会の進め方

上記の意思の表出の仕方とタイムラインを踏まえ、今後分科会としてどのように検討を進めるか一人一人の意見を確認した。当初、委員長からいくつかの項目に分けて検討することが提案されたが、時間が限られていることや項目ごとに目指す内容が定まっていなことから、「新生児についての検討課題を中心にしながら、先天異常や障害児などについての議論も含め、全体としては一つの内容とする」こととなった。

今後の進め方としては、1月末くらいまでに委員長が骨子となる文案を作成することとした。表出法としては、「見解」ないし「報告」とすることとし、いずれになるかは検討の

進み具合によるとした。

(4) 今後の日程

1月下旬から2月末にかけて会議を行い、上記の骨子について確認することとした。そのための日程調整を委員長がすぐに行うこととした。笹月氏の委員就任が幹事会で承認され2月後半に確定したら、笹月氏に一度発表を行なっていただくこととした。意思の表出後のフォローアップとしてのシンポジウム開催などについては今回は提案にとどめ、特に議論はしなかった。

以上